

海王堂

卷



若らるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの
さるるのさるるのさるるのさるるのさるるの

口明〜第〜ぬ花や女〜を 超波
小きり腹のめね下を後 永機
樋の音小〜〜株の何〜〜
室〜〜〜貸店乃月 超
や〜水の陸舟〜〜の〜
把柄〜〜〜〜大板〜 永

あふも亦都乃が〜の年忘れ
新澤のふの喜〜と通り若〜
〜す〜と〜は佳〜の中属り
麻り〜と〜れ〜先〜ん
今〜の緒〜も〜の〜
敗毒散〜一人〜は
家〜の世〜り百方通小服片脱
四苦〜〜〜り年小入る月
永、超 永 超 永 超 永

秋の〜れ〜の形〜の利口さよ
保〜を〜片〜の〜
あ〜〜〜見〜の合の〜
若〜と〜は〜の〜若〜
春風の〜〜〜け〜
あの大〜〜〜り〜
牽〜の〜〜〜れ〜
回〜〜〜小〜の〜
超 永 超、 永 超 永 超

ワすれや、隈狭乃事所 永
姉もし居れぬの小育月妹 超
五倍子挽の〜と白一葉片 永
蓮〜とやと生玉乃秋 超
清原舟乃涼乾と波の月 永
望程ひ日此朝乃勢ひ 永
村雨の〜と上げらぬ利の色 超
舞榮つもさる乃首と〜れす 永

まし控〜唐申塚と誰住長 超
田植時ふり娘の妹〜さ 永
醜〜カネの白〜とつさる 超
こひ〜と砂と存替地地音 永
朝〜と〜藍乃枝嫌の最此門 湖十
帆下乃浪世〜と〜 執筆

わ~~~~~

あ~~~~~

う~~~~~

~~~~~

あ~~~~~

~~~~~

大内の朝起續くもの草木と

超波

さ〜あね延る芳解の落
岷栗

級下〜成る味のすれみ
水楚

松印の〜〜右灯籠責
永機

報明のすま補日のる月のさ
岷

露の降る夜をさたるらぬ
水

秋の田小神とぬれ清秋とる
刻きとるりととけぬとる
中込の坊カあそ感る無用とる
河とくし構和舟とと紫と
後とく旭乃出乃百倍
二階乃とく白紅丹は後
彩ひとる社の籠乃様と吹
こるとるられ空鳥鳴く
永 水 沾 超 岷 永 超 沾 耳

鼻紙とて後言士乃貫ひり
卯の時雨と海の中北の
さりとるか乃花と雲名の月と暈
ゆるとと芽と去乃と戸
親乃代乃おくゆとと内裡能
曆の敬とよら日すと
とらととやけとの上撥と
は有とやるとととちり
永 超 岷 永 超 沾 水 岷

占し果ぬ口言り江縹りく
 破れり告げし帆も走や
 百姓の弓一接片譲りまの
 焚火し祖父の囀空う傳
 牛王掬る腹をまし冬月
 秤介さし口吸もれる
 傾條の兄いしはふ何し
 おもひしし 巫女存分
 永 水 岷 超 沾 水 超 沾

奠し茶の好ぶ梓楳のあし
 小賣酒屋のり売樽と積む
 寺々し風し御厄もひ
 系近者れし物もろ系
 見ゆし宴の宴の花の空
 法代乃春ふかふな
 沾 永 超 岷 水 沾

七月七日長生殿
時在天願為比翼鳥
在城願為連理枝
長恨歌

七夕や甲子の夜
投針やの帯

超波

翠子袖の
夕日乃影

青娥

初草の雨の後の色中

照仙

深山此昔の月の下と舞

李喬

背の影の榴の岬もろ子屋人

青

身よりく
神のね風

照

肌ぬげどさけう研屋ハ錦也
是ハとゆ〜は今乃上階経
彦州の屋〜血の葉
く〜も見ん〜麻乃あ髪
〜中江や〜又物〜
竹と續〜奇〜合
長刀一知ぬ母乃〜
け旅〜醫者〜と上客
照 青 李 超 青 照 李

高〜落次才〜奇確好
居〜保花乃 下
織色〜花乃月の波
摸〜人乃とゆはか〜
稻村氏〜ある〜
はぬれ〜行〜な〜
酒價〜八反〜付
町柳〜刻〜榎木榛木
照 青 李 超 青 照 李

念佛の想よ流れて川千香 李
人と互に指す乃城 超
春月や紅先紅く塔芭蕉 照
蟠と若菜此よりけり 青
白魚と水戸部より勝月 超
埃し筑波は朱の玉垣 李
世間と火の除け陽に於て 青
持病の勝よりえり 照

耳に色口押あしる 李
今出る毎に方と少し 青
知常のまぶあまのぬや 照
煮るにさうさある 超
花の奥八百本乃精此洞 李
之のあられと 執筆

八月朔日 茶人の許

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

超渡

八朔やもねふ影あし月の夜

~~~~~ 寸厚乃余明 可容

~~~~~

~~~~~ 起

~~~~~

~~~~~ 可

層も膝も雲も水も児也り可  
波も浪も水も木も道也超  
三天の小松小砂ととも可  
蘇も香も出も冷人の可  
目も汁も通もくも可  
松も枝もれもくも可  
新もいも袋もくも可  
起もくも乃も可

精も水も縁もぬれも可  
嵐も布もくも可  
春も花も月もくも可  
何と誓もくも可  
引神も河津部も可  
有も松もくも可  
魚も卵もくも可  
先出も本合も可

字子介越し〜ぬらうか〜付 超  
照日〜け〜〜あ〜の星 可  
早し女の夜も掛〜新かく 超  
お命有らうの〜お母〜人 可  
い〜して飲む〜つ〜ぬ 超  
七百足〜馬子印〜乃西 可  
は〜ぬ〜お〜ひ〜か〜如の月 超  
客小素〜し〜會〜う〜菊乃名 可

白布ま〜れ〜糸と紙子揉む 超  
服と臈〜すやま〜の袴 超  
鞠おれし江のつ〜の 鞠 超  
那時金と袴〜角套〜も 超  
官〜ら〜の〜ふ〜わけ〜花 可  
流水ま〜れ〜ふ〜ぬ〜し〜し 執筆

江城の所々々々地名は... 我らら  
... 今や中野...  
西の... 武藏...  
... 山...  
... 草

武蔵野の... 入... 江... 月  
超波

碓氷... 橋... 南... 丹告

吾... 牛のハ... 幸... 笠山

此... 能... 走... 青蘊

名... 山... 丹

い... 物... 丹... 笠

橋西と屋敷中しし荷ひ色  
 倍乗坊の法衣を金うる  
 穰あつ方物しんく通しり  
 親しむ代のうらまこと 待  
 香少しい起信の灰小目河かた  
 一板ゆりし 海内世無き  
 西陣の朝りしらふくを暗し  
 咄りおろ 銜より

青 超 丹 青 超 丹 青 超 丹 青

何れもあや法師ふさの 贈所書る  
 名月望のやうし 金屏風を  
 花咲く 葉言 朝の戸物成  
 夕くれ空く 朧 乃 月  
 涅槃像坐す 彰峯志悦これ  
 脈と 輝し 小山乃陰  
 之原小銭了し 世の男話す 傳  
 心れしけ月 明 禁く 書

青 超 丹 青 超 丹 青 超 丹 青



日乃屋まぶし肌入れぬ塔のすく  
宰人の樹も苔のいふ 桃 丹 青  
板橋高山麻のゆ織れ公侯合 笠  
とあゆと新 諸願成就 超  
とつらとすけと仙母はる也 丹  
長持責ねく 厨の明り 青  
上りりてあのみく 小月夜待子 超  
十日しつりて 影書まの 唄 笠

さうさゆふすつきの中夜かみ上 青  
くれいり中まうす志しる母 超  
山伏もくもくもくかきぬ 丹  
りあま度人の執人乃り 青  
雲国生まれりりて花盛 笠  
春の鑑やうきり 粥 執筆

田原様よりしつこくおぼしし  
 りりりりりりりりりりりりり  
 一馬の如くおぼしめさるる  
 りりりりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりりりり  
 乃ト云ふは勝つてしあつり  
 りりりりりりりりりりりりり

早し女や河の海のく月屋所  
 口まく明けしゆりりりりりり  
 策ハ雨れぬ多と物とるれり  
 一も捨く曲に裁賣  
 乙船乃事進出りりりりりり  
 角力の左報をあれりりりり

超波  
 塵江  
 泰里  
 青羶  
 塵  
 泰

善提子の珠敷あり〜終の序に  
年のふる〜りんまんかほ家  
書〜若くはぬ念点のたひを  
著し〜らん〜かひあな乃毎  
橋舟掉とさ〜れて木々のゆる  
藤とといつれ〜とふ侍  
霜れやうねを丸に葉の露  
水とほ〜く〜ひひ乃月  
青 塵 超 青 塵 超 青 泰

昨鞠の緑青色お〜るゆり〜  
池上建〜〜大工我ま〜  
花盛さ葉貫〜〜幕〜とある  
ゆれり冬〜〜とゆれり字念  
廿日何事〜九〜といふ小綿とぬ  
あ〜〜とゆれり〜  
木の下〜〜魚〜流れ去  
年小一二夜寒法と掃〜  
青 塵 超 青 塵 超 青 塵

まろぐー 乳母う内も 雙斗は者 泰  
まんとく丸乃 今の 靑色 靑  
種供言 腹とちぶて 腹うり 超  
出まろひ小 腹はとれ 雨に 泰  
舞子 行まろ 度友と 蹴り 塵  
二布 干よ 海みら ねり 超  
借る 車言の 花散と くのせ 靑  
即ち づ清と 一ッ くら 波 塵

持量小く と思ふ 小松 原 泰  
これづく 也 花乃 吉 水 靑  
ま 風のお ちと ぬ冬 の 夢 超  
角 花あ の 麻と ちり 泰  
武者 終り 五十年 水 時 塵  
宋 終く ちまぬ 明 六ッ 乃 空 執筆



華邸俗うししめ竹植く  
のころと多きう二度中見る多  
物喰ひにけし枕も川もせき  
今こそ数時乃車行しよ  
早痛と盗んて船もきりて  
衣すめしききききききき  
つも若るかきりての結と子小き  
建仁寺しききききききき  
青 超 訥 李 超 訥 青 李

年し流る刀を何せしや  
祝言乃ぬ所家と皆抹る  
三月小くけりて花乃輪  
語所毒言乃語所の言  
醜の標としゆき言乃凡  
高素結としきり物依佛  
物さふとのれ物、語しき  
そのあきしきしきしき  
青 超 訥 李 超 訥 青 李

腰柳。村田も家小園の  
戸とくしし生テ取也  
同くし小女雨流の下北系の勅  
とくしそくし飛ぬ清水  
誇りし段理の経云以信す  
唐下りくふこやし行也  
霜のこすけりも去ハ離れ物  
唐以乃家来脊くしり破  
訥 故 青 李 超 訥 李 故

李

此橋や鏡と云との作り付け  
位もさつを風初りく喉  
十夜盤の文字ハ唐小似もや  
以玉佩ししすまはる家ハ  
其中小精を引くる花の下  
尔先かくしり唐やつる  
故 青 李 訥 超 青 訥 李 故

李

石像小物月々  
 佛と即色是空空即  
 是色  
 色空定色と無二無別  
 こと  
 さに體燒略の血  
 山のいよかよひんか  
 作麼生うか  
 尋身くわ

川海老や陸一あられまかりす  
 芥子くくつんとれつ  
 琴の鼓宿る月光の用定して  
 山と真の心は神小書へ  
 根柏系舟一系せし漕出  
 心はけ合ふて年五つ下  
 有佐  
 兼揚  
 歡之  
 貞子  
 雷水  
 超渡



不化寮と物紀片葉とて種のみ 貞佐  
午時花と咲けと定ぬる 執筆  
物と何ぞほれぬみの衣さきと 業  
小舎一の道とや母行かん 超  
肩癖と衣付打と大遠ひ子  
是山際り出るとは路もあに 歡  
帆上げぬあはれど、飲酒水の月 有  
と前指荷ふあうとほす業 負

此頃うら福よのあ感とてし 雷  
月こゝろはあく焼守宮散所 超  
馬路の園提荷長江花の枝 子  
昔かきとくし新の牛も 業  
衣の糸と糸と物とれ物とまひ 歡  
尖とよめとけと女とるの 雷  
前香しがとるも福早と誇め 有  
と夢たれと行雪の湯房り 貞

のち小早、首、石塔、至  
溝の禹王、熱、  
明、六位、  
板、  
大、八十斤、  
り、  
何、  
雨、  
灯、  
真

更、  
百、  
初、  
つ、  
足、  
菫、  
有  
子  
真  
雷  
超  
真  
子  
有

喝牛ハ婁氏觸氏ト左右の角

~~~~~

~~~~~

~~~~~

牛の子ふふ~~~~~

~~~~~

舞

舌のたれた鼻ハ舌のたれた~~~~~

超渡

葉ふまき~~~~~ぬ捨か~~~~~

茶井

~~~~~起程~~~~~人~~~~~

~~~~~窓の夕月~~~~~

超

秋の蚊の刺~~~~~付カ~~~~~

~~~~~茶~~~~~

茶

別當一月額の湯とほく新
大工下駄と作持まの空 超
涌り水家鴨の湯とまの空 茶
小田所河内通持葬礼 超
福の徳小吉持田まの空 茶
まゝかぐー小豆飯積く 超
言の寄捨まゝまの空 茶
月の中ゆれ元日乃 超

修行者のまの空愛し花の春 茶
春時まの空又母れ 超
月江病し茶江香んて唐船の月 茶
まゝ斤口乃まの空初秋 超
女ゝ花田の谷の候小成あがり 茶
流しまの空しぬまの空 茶
惣く人死んまの空し酒小持 超
まゝまの空し味線とまの空 茶

松明よこり古くは心忘れぬ
超
留成の隔夜念佛茶
飛鳥芽を在昔の物か
超
ぬくお下し珍もは回る
茶
涼しきや清水とある夏火根
超
刺燈とくしきと名て見る
茶
去の月貴が木綿は
超
切るとあるの風し君強る
超

その午おのふと高とま
茶
ゆるりと次への花乃同か
超
去のくも今朝眼を是る
茶
帯しとえきくけと以後
超
人参り結してとれる香
茶
おの川持り作とる
執筆

尚書らりあつていそいで光也
古具馬と板中茶ふりしを

感慨をいふ

いふ

茶

讓館をいそいでいそいで肥前也

超波

様は〜〜〜親の名し来る 其畔

馬刀貝子り〜空鞘やあつらん 貞佐

まを〜はる〜膝く俯け 超

け所、籠るふれあゆ乃月 其

兄弟を〜と〜まゐる 貞

竹藪一人の遠入る風乃者超
吾全焚く回極くりり其
諸の負し物引せり得利生
根心少くは物多しと年一
うらうけふ心あさる小盆
や回しうる也一花の影寂
續る月奴も屏風あはれし
川岸くさしく歳一峰
其超貞其超

二溪の名もふしと(子)云の
か書きししは近侍酒盛
あつとくしおれす乃そ賞冠
常あさしとるさ本乃君
何いしは心あま小物風し
越しと見し侍木骨乃様
小出家小あましとそ無し性相
師くも少くは神乃多
其超貞其超

角と指割業ふつゝの圖兩其
香や三は〜ん整伸と書け貞
きよあとし真の上へ塩とあり超
外して持てしは内可一乃可其
はゆ細小〜んの弱乃をれ月貞
め波淋〜れ柱の〜ゆはこ超
温泉風吹く伴藤乃田面川比小其
火繩乃跡と述〜り〜とる貞

無意用ふは〜〜も五六年超
穉小ハ何〜ぬ下系乃飯、
古佛〜と米根の〜と賞少〜其
女〜房ハ五倍子家磨砂、
三味線の二所目分〜花臈貞
瓦か〜は存れ董か〜摘女、

梅花の枝より玉雪の香と
中と意とに千本小万斛の
香ととくくく風流

春の解き成

東の雪

超波

| | | | |
|------|---|---|-----|
| 朧押の兵 | 〜 | 〜 | 梅の花 |
| 簪古小早 | の | ま | 柳と出 |
| 息子 | ら | 給 | ぬ |
| 吹矢 | の | 尾 | の |
| 玉 | 々 | 帝 | う |
| 角 | 〜 | 〜 | 〜 |
| 長 | 水 | 〜 | 〜 |
| 青 | 峨 | 〜 | 〜 |
| 執 | 筆 | 〜 | 〜 |

照仙

泰陽

長水

青峨

執筆

小刀ハ何小結ニル 照
告の枕ニ 咽とくも 超
朝日ニ 謙余月名ノつれ者 長
結ノ時布 汗拾めらる 青
醉ニ月ト 恋瓜する月と 泰
と 空仰 強々 念者 利 照
月や 二十日 乃 三 超
照 長

と 一ノ 暮 後ノ 巻 地 青
杯 宜ノ 白 衣ノ 影 空 月 泰
あ 入 ね 福 照
那 乃 あ せ ね 疲 野 老 遠 超
玄 関 迎 び 出 る 子 長
月 蓋 長 者 衛 命 青
升 看 見 今 見 小 叫 超
惜 唄 淋 淋 秦

まろくろの煙絶かー丁子釜長
ま少絶しまろくろの煙味の輝照
きしきとま少清のまろくろをまきし
おろ化り根もぬをまきし照
草足袋の足も目もろくろ作造照
こむれ松葉まきしむきをる庵夫長
おまの少母一被月乃まきし超
温輪乃首に月移りまきし青

おまの少母まきし花もまきし
金一枚乃積まきしや
利もまきしおまのまきし照
おまのまきしおまのまきし青
おまのまきしおまの果れ移りまきし長
おまのまきしおまのまきし秦

柿もいかにあつても
うしろをきり香いし
木をさし乃裡午弄り
蕭々して四々凡と
起り道あり静まはし
くわゆる山道く其山

此角移ろろし〜眼すも
みそ汁ぬゆ〜推す乃
伊〜おむす〜あらわ
〜ゆ〜る路よあ〜え
れ推りしゆ豆腐油あけ
や〜の〜れ〜る〜食〜り〜み〜
つら手〜舞〜あ〜この籃ハ
〜の〜あ〜も〜同〜ろ〜る〜や〜れ〜え

腐心風を待て鷗雛を
るも 莊周よりはつゝ
れも人ねのあはし 将あふ
を過りてらもちあれ殺の
はらふもニ十回あはら
わらふも搏ふ踏ふ力上
るあは震し指し 踏ふ
羽色の乳を唾ふ家あ

まらるあつあてもすの
如るの仙陵を金る色の翅
を搏ふ 姓あれ治乱を
さあまのり前漢乃之部
と凡あつり容るの制
未央の遠也 斗さ冬
あはれつゝあはれ
はらふ 春あつる

のこころをさるるはあつた
をれつはれしりしあはれ
のちりてあふれとらうとの
ひらきつゝさるるはけり
あふれとらうとの

超、高正

糸のこころの目早に師書

超渡

柳とめむし蝶掃の川

青嶽

あつたの剥身れ糸とねも侍

あつたやすはあつた腕あつた

超

竹山ふり代と一ねと月夜

あつたねれり蛇の年

青

葉生六寶の中へ移し出され
くはるひも賞かゝるれり判
之味原へも春の泪うきん
舞子乃海へ四方の踏ひ
吊し和字はくふなりぬき
兼好のくも腹とくも也
くろ君のくもはくもくも
土のくもくもはくもくも
青 超 青 超 青 超 青

永く月やあれくもぬ人の在
舞とくも舌くもくもくも
余花の月生ましくもぬぬ
通り遠のくもくもくも
くもくもくもくもくも
淡れ家中乃くもくもくも
来くも見れくも加田くもくも
はれくもくもくもくも
青 超 青 超 青 超 青

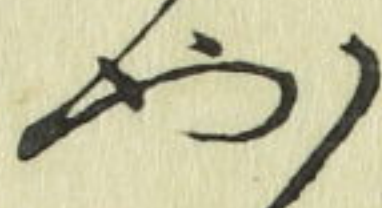
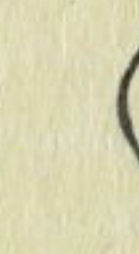


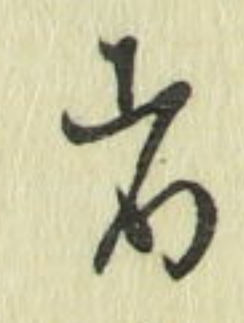
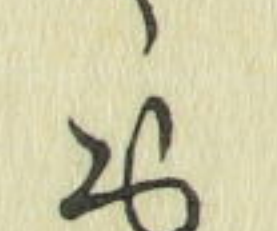
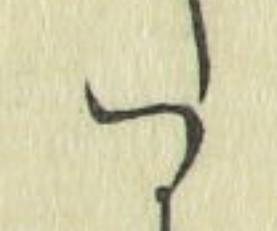

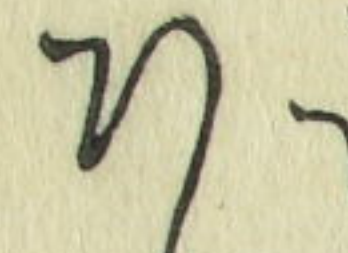
物とてふ所代。馬帽子打
義朝殿の法のま川風
岩借し礼小湯杖通々振
因乃新釣りの白た夕暮
法沼のくまら雨乃溜り水
十とがら〜皆女子也
月少ふ不金中 雀と盗りぬ
あふけと路り 芋 洗 檜 超
超 青 超 青




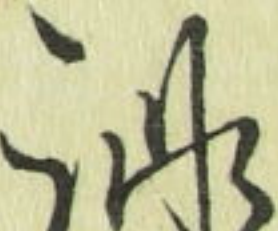
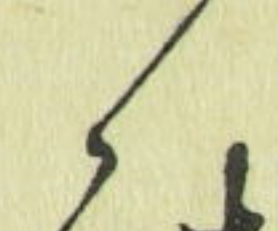
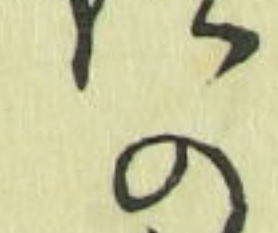






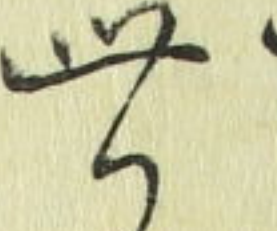
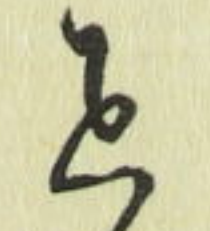
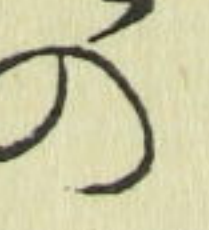
紫生葉の葉ふ〜〜〜
あふけと路り 芋 洗 檜 超
白鶴今放し〜〜〜
古江へ度き花乃短冊 超
ととと〜〜〜二人〜〜〜
先き〜〜〜 筆 超
執筆

橋のまゆき如くは
 長くはかきつらき
 下らんをいへば
 そのこころは
 まくのこころ
 へはなれり
 のこころは
 平らに
 あり

後

百十

あきのつね 
かみ 
この 
の  **建** 
か 
は 
り 
り 
り

ふ      
あ 
り 
る 
こ 
こ 
き 
く 
く 
く 
く

のうらまはくくくくくくくくくく
ちうくくくくくくくくくくくくくく
ふゆくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
安とくくくくくくくくくくくくくく
乃以津 根くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく
中くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくく

しるし
 〆

好

享保十八年丑九月

日本橋通一町目

江府 松葉軒 萬屋清兵衛板

俳諧書目録

松葉軒壽梓

| | | | |
|---------|--------|-------|-----------|
| 俳諧類輯子 | 共角撰 三冊 | 俳諧魚尾琴 | 共角撰 三冊 |
| 同後餘花十音勺 | 沾徳撰 二冊 | 同續江戶筏 | 不一撰 二冊 |
| 同代々蠶 | 貞佐撰 五冊 | 同百福壽 | 沾涼撰 二冊 |
| 同俳方曲 | 識月撰 二冊 | 同續 | 沾涼撰 二冊 |
| 同百集夏 | 沾涼撰 二冊 | 同花捲菴 | 繪譜 常陽輯 二冊 |
| 同徵雨此梅 | 露月集 二冊 | 同或問珍 | 史登輯 一冊 |
| 同誦太高 | 湖十撰 二冊 | 同夏想扇 | 一冊 |
| 同梨乃園 | 貞佐撰 二冊 | | |

江戸日本橋南一町目
 萬屋清兵衛藏板

